

留萌のみなさん あけまして おめでとうございます！

A HAPPY NEW YEAR

若松 勉さん

TSUTOMU WAKAMATSU



やコーチ、スタッフが一生涯命働き、チームを支えてくれたお陰で、3年目には日本一を勝ち取ることができました。やはりこのシーズンが一番思い出に残っています。

プロ野球のヤクルトスワローズ監督を7年間務められ、今季限りで勇退した若松 勉さん(留萌市栄誉賞受賞者)に、お話を伺いました。

——お疲れ様でした。ヤクルトの監督7年間を振り返って、感想をお聞かせください。

若松 留萌の皆さんには、選手時代から、また、監督になってからも、温かいご声援をいただき、本当に感謝しています。ヤクルト監督の7年間を振り返ると、長いようで短かったように感じています。名将野村監督の後任ということ、プレッシャーを感じながらのスタートでしたが、選手

——2001年日本一のシーズンは、留萌のまち全体が盛り上がりました。そのときの様子はご存知でしたか？
若松 留萌のみなさんが応援してくれている様子は、テレビや留萌の知り合いの方から送っていただいた新聞記事などで拝見していました。本当にたくさんの方々に応援していただき、心から感謝しています。

——若松さんの少年時代の思い出を教えてください。

若松 留萌での思い出は、やっぱり野球とスキーです。中学では夏は野球部、冬はスキー部でクロスカントリースキーをやっていました。その

心に響くものがありました。

——距離からバイアスロンに転向した理由は何ですか？

若松 私は走力で勝負する方が好きだったので、以前は射撃に左右されるバイアスロンが好きではありませんでした。でも、ある時からバイアスロンで世界を目指してみたいという思いが、大きくなってきました。射撃の面白さや射撃結果が成績に与えるウエイトの重さに魅力を感じたんです。射撃は他の選手から比べればまだまだですが、練習や大会で学ぶこともたくさんあり、とにかく今は、バイアスロン競技って楽しいの一言です。

——トリノに向けてどのような調整を行っていますか？

若松 今はワールドカップを転戦中なので、体調管理に気を付けてながら、一つ一つの大会を大切に、その時の最大の力を出せるよう調整して大会

若松 勉 昭和22年4月17日生まれ(58歳) 東光小、留萌中、北海道、電報北海道を経て昭和45年ヤクルト入団。現役時はMVP1回、首位打者2回、ベストナイン9回など数々のタイトルを獲得。平成元年現役を引退。ヤクルト2軍監督、1軍打撃コーチを経て平成10年道産子初のプロ野球1軍監督に就任。

両方で中体連の大会に優勝できたことが良い思い出です。留萌で過ごした少年時代は、とにかくスポーツに明け暮れていました。その後、高校進学の際に、野球とスキーのどちらを続けるのか随分悩みましたが、結局野球を選び、北海道に進みました。今考えると、留萌を離れるこの時が、自分の人生の大きな分岐点だったんだなあと感じています。

——今後の抱負をお聞かせください。



ヤクルトのセリーグ優勝と日本一に沸く留萌市民(01年ぶるも1階交流プラザ)

——留萌の子供たちや市民にメッセージをお願いします。
若松 これから留萌も厳しい冬を迎えることと思います。夏に活躍するために、シーズンオフの過ごし方も大切です。留萌のちびっ子たちには、寒さに負けずにどんどん外に出て遊んだり、スキーを滑ったりして、体を動かしてほしいと思います。
留萌の皆さんにとって新しい年が素晴らしい一年でありますことを心からお祈り申し上げます。7年間、応援ありがとうございました。



トリノ五輪に向け、調子を上げていきます。

——長い間、第一線で活躍を続ける秘訣は何ですか？

若松 うーん。秘訣と言うよりも、今こうして、自分の好きなスキーを仕事として出来ることと、自分をスキーに導いてくれた家族や周りの方々のお陰だと思っています。

——家族とは、まめに連絡をとっていますか？

若松 家族とは、落ち込んでいる時などは家族の声を聞くだけで元気になれるし、自分にとって、なくてはならない存在です。本当に多くの人たちの支えがあったから、やってこれたと感謝しています。

——大高さんの留萌の思い出を教えてください。

若松 中学校にはスキー部が無かったのですが、スキー関

——留萌のこともたちや市民にメッセージをお願いします。
若松 留萌でスポーツや勉強を頑張っている皆さん、何か自分で夢や目標をもち、それに向かって自分に自信を持つて頑張ってください。必ず夢や目標がかなうはずですよ。
留萌市民の皆さん。これからトリノに向けて頑張りますので、応援よろしく願います。

大高 友美さん

TOMOMI OTAKA



——3度目のオリンピック代表おめでとうございます。感想をお聞かせください。
若松 ありがとうございます。バイアスロンはスキーと射撃の組み合わせでタイムを競いますが、まだ射撃が安定していませんので、代表に選ばれないので、実は代表に選ばれた自信は全くありませんでした。でも、「挑戦」する気持ちを持ち続けていたのが良かったと思います。今回の代表はこれまでの中でも一番嬉しく、

——トリノに向けてどのような調整を行っていますか？
若松 今はワールドカップを転戦中なので、体調管理に気を付けてながら、一つ一つの大会を大切に、その時の最大の力を出せるよう調整して大会

大高 友美 昭和51年11月21日生まれ(29歳) 緑丘小、留萌中、旭川大学高、日本大学を経て現在は陸上自衛隊冬季戦術教育隊に所属。中学から始めたクロスカントリースキーの日本代表として、長野、ソルトレークシティー五輪に出場。3度目となる来年のトリノ五輪には、バイアスロン代表として出場内定。

～トリノ&バイアスロン～ 第20回オリンピック冬季競技大会は、2006/2/10～26(17日間)イタリア北西部にあるトリノで開催されます。大高さんが出場するバイアスロンは、フリー走法のクロスカントリーとライフル射撃を組み合わせた複合競技で「動」と「静」の相反する要素をバランスよく整えることが求められる競技です。

大高選手応援メール(FAQ)を募集しています。 Eメール: rumoi-city@e-rumoi.jp FAX: 43-8778

写真提供: TK Sports Shooting

～若松伝説～ 数々の実績や逸話を持つ若松さんの偉大な記録やエピソードをご紹介します。通算安打2173本で名球会入りした若松さんの通算打率3割1分9厘はプロ野球歴代最高打率!(5000打数以上)通算サヨナラ本塁打は、世界の王さんと並ぶ8本。若松さんのここ一番の勝負強さが表れている記録です。01年優勝監督インタビューでの「ファンの皆様、おめでとうございます」の一声はその年の流行語大賞!